

エール学園 2022 年度事業報告

I 全体の運営概要

2022年度は、なお新型コロナの影響の中での学校運営を余儀なくされた。ただしようやく2022年4月より海外からの留学生が日本へ入国できるようになり、ようやく行動制限はあるものの全学科の入学者が4月より揃った。6月には全面登校も開始。7月からコロナの影響で自粛してきた学内イベントも再開できるようになった。本校の特徴の一つである学生たちのボランティア活動も徐々にではあるが再開できる環境となった。

本校の学生のほとんどが留学生であることから、在籍者数はコロナの影響を受けて大きく減少し、この傾向は2023年度も続く見込み。ただ2022年度には本校の送り出し校の中心的存在である日本語学校は2022年4月より入学者が回復をしているので、2024年度には学生数が本格的に回復する見込みである。

教育内容としては、コロナ感染の影響下でオンライン教育を全学科で展開し、ハード環境、ソフト環境を整備し実施ができ、各教員もオンライン教育、ハイフレックス教育を実施した経験で、その教育技術を大きく向上させたことは大きい。そのために多くのオンラインでの学習教材が学内のLMSで整備がされており、対面教育の中でも、予習・復習、課題提出、オンラインテストの実施など教育の質を大きく飛躍できたと確信する。

学生募集においては、2022年度より本格的に高校への広報活動を実施、高校生の入学者の獲得を開始した。対象が高校1年生、2年生であるので、2023年度の入学者は実績が出ていないが、今後は徐々に広がる見込みである。またこの活動の中で高校に在籍する渡日生と出会っている。海外にルーツを持つ渡日生は日本の国際化で増加してきており、各高校もエール学園の支援に期待するものも大きい。2023年入試より渡日生入試を開始したことも今期の特徴である。今後とも留学生入試とともに渡日生入試を継続する予定である。

一方海外での募集活動はコロナの終息期で再開されたが、東アジア、東南アジアに合わせて、南アジアへの広がりを見せている。特にネパールの学生が今後増加する見込みである。また国内の日本語学校での留学生の募集活動は2023年は横ばいの状況であるが、2024年については大きく回復する見込みである。

II 設置学科の運営状況

1 国際ビジネス学科、国際コミュニケーション学科

①在籍状況

<在籍者数>

4月：5月1日、10月：11月1日現在

学科	2022年10月	2022年4月	2021年10月	2021年4月	2020年10月
国際ビジネス	267	273	232	249	180
国際コミュニケーション	197	202	232	238	214
計	464	475	464	487	394

②2022年度進路状況

<インターンシップ参加状況>

・受け入れ企業 45 (昨年 71) 参加者学生数 56 名 (昨年 114 名)

<就職実績>

2022年3月卒業 *4月26日現在 内定者 152名/就職希望者 173名 87.9%
未内定者 21名(2年制21名・デュアル0名):活動継続中

- ・デュアルビジネス(1年制) 内定者16名/就職希望者16名 100%
- ・貿易・経営ビジネス/サービス・通訳(2年制) 内定者136名/就職希望者157名

2023年3月卒業 *5月8日現在 内定者 160名/就職希望者 168名 95.2%
未内定者 8名(2年制8名・デュアル0名):活動継続中

- ・デュアルビジネス(1年制) 内定者9名/就職希望者9名 100%
- ・貿易・経営ビジネス/サービス・通訳(2年制) 内定者151名/就職希望者159名

<特記事項>

今年度はコロナ収束に向かい、多くの合同企業説明会はリアル会場で行われました。また、自己応募の促進で求人情報を配信します。経営・マーケティングコースの学生は不動産の営業で多くの学生を採用しています。サービス・通訳コースはホテル就職と関西空港(免税店等)で就職が決まっている学生も多くいます。経営管理(起業したい留学生)及び大学進学希望の学生も例年より増える。

<就職状況>

デュアルビジネスコース

リーガロイヤルホテル、(株)教育総研、株式会社リッケイ、株式会社魁半導体とその他。

貿易・経営ビジネスコース

株式会社シャルズ、ワールド工業株式会社、伊予屋食品株式会社、株式会社坂口製作所、株式会社ファミリーマート、木村製作所、大黒天物産株式会社、株式会社 FORYOU、株式会社シーアイエーオー、伊予屋食品株式会社、合同会社パル・コンサルティング、トーヨーメタル株式会社、大阪日本語学院、(株)関空エンタープライズ、株式会社 LEOC、株式会社ベッセルホテル開発とその他

サービス・通訳コース

アイデア S.C 株式会社、バンデホテル株式会社、くら寿司株式会社、さきしまコスモタワーホテル、株式会社エースパック、株式会社アゴーラホスピタリティーズ、株式会社社会イオシス、ニコニコのり株式会社、株式会社プラザオオサカ、あんしん保証株式会社、リゾートライフ株式会社、スイスポートジャパン株式会社、株式会社アイデアホールディングスとその他。

<進学状況> 18名(昨年4名)

大阪女学院大学、日本経済大学、神戸医療未来大学、羽衣国際大学、大阪観光大学、関西国際大学、相愛大学、大阪女学院大学とその他の大学・専門学校。

2 応用日本語学科

①在籍者数 11月1日現在

	2022年4月			2022年10月		
	1年生	2年生	合計	1年生	2年生	合計
大学院進学コース1年制	30	4	34	26	4	30
東大・京大・阪大進学コース1年制	5	0	5	5	0	5
国公立大学進学コース1年制	30	5	35	29	5	34
有名私立大学進学コース1年制	19	4	23	17	4	21

進学日本語1年制午前	96		96	93		93
進学日本語2年制午前	45	72	117	43	67	110
進学日本語1年制午後	12		12	11		11
進学日本語2年制午後	27	62	89	26	57	83
合計	264	147	411	250	137	387

<過年度比較>

4月：5月1日現在、10月：11月1日現在

2018年 4月	2018年 10月	2019年 4月	2019年 10月	2020年 4月	2020年 10月	2021年 4月	2021年 10月	2022年 4月	2022年 10月
586	551	731	691	763	692	822	737	411	387

②合格実績

<大学院合格者>

北海道大学、富山大学、岡山県立大学、北陸先端科学技術、
関西大学、立命館大学（2）、桃山学院大学、摂南大学、大阪芸術大学、京都橘大学、大阪経済大学

大学院合格者数	2019年度 (最終)	2020年度 (最終)	2021年度 (3/10現在)	2022年度(3/13現在)
東京阪	1	2	2	0
国公立	12	14	17	4
参考：大学院コース人数	69	74	65(21)	30

<大学合格者>

大阪大学（2）、東京工業大学

弘前大学、岩手大学、山形大学、茨城大学、千葉大学、金沢大学、滋賀大学、公立鳥取環境大学（2）
香川大学、高知大学、山口大学、鹿児島大学

北見工業大学（2）、富山県立大学、名古屋市立大学、京都工芸繊維大学、下関市立大学（4）
大阪教育大学（5）

大学学部合格者数	2019年度 (最終)	2020年度 (最終)	2021年度 (3/10現在)	2022年度 (3/13現在)
東京阪	1	2	2	2
国公立	55	45	25	28
参考：東京阪クラス人数	5	8	5	5
参考：国コース人数	66	73	52	34

<専門学校合格者>

年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合格者数	160	190	228	125

参考：10月時点在校生数	691	692	737	387
--------------	-----	-----	-----	-----

2 運営状況

今年度も新型コロナウイルス感染予防に努めながら、学生の学習機会を奪うことがないように運営を心掛けた。混合授業という形で新学期が始まったが、6月20日（月）からは全面対面授業を再開した。昨年度同様、学生・講師に感染者が出たが、すべて学外感染であり、学内感染・クラスターはなかった。今年度は何よりも、新型コロナウイルスの影響で数年間中止となっていた行事を復活させることができたことが特徴である。

昨年度、国際交流祭の代替イベントとして個人参加の写真コンテストを実施したが、今年度はクラス単位で取り組む国際交流祭を復活させた。感染予防の観点から、これまでのように地域の方を招いたり、飲食を提供させたりすることは自重したが、母国のゲームなど文化系の出し物・発表をクラス全体で準備してもらった。学園内だけという限定された空間ではあるが、メンターと共にクラス単位で協働して一つのことに取り組むことで、新型コロナによって機能不全気味だったクラスコミュニティ作りがやっと動いた感がある。

また、校外学習も数年ぶりに再会することができた。場所は天王寺動物園という近場ではあったが、単なる遠足にはならぬよう、室員が入念に準備した。結果、天王寺動物園の職員の方による、動物園の歴史・戦争と動物園・「動物福祉」についての基調講演を聞いたうえで園を見学するという形を取れた。これは学生だけではなく、大阪に住む講師・職員にとっても有意義な学習機会となった。

さらに全面登校によって、学生による地域清掃も再開できた。今年度は学校周辺だけではなく、遠方に出向くなど学科すべてのクラスが一度は清掃に参加した。この活動については、地域清掃が中止されていた期間にメールでの授業を始めた日本語講師に驚きをもって、また学生たちの違った側面が見られるという非常に肯定的な評価を得ている。次年度は、こうした講師の方々にも一緒に参加していただけるように準備をしている。

最後に授業関連で、プロジェクトワークを上げておきたい。

まず、今年度のプロジェクトワークは、新型コロナ感染禍での経験が活かした事例のひとつとして挙げることができる。進学日本語午後クラスの学生たちは、企業のSDGsについて調べ、その企業の方にインタビューするという企画に取り組んだ。この企画を実施するにあたって、新型コロナ感染禍で教務・講師の練度が高まったZOOMを活用し、インターネットで教室と企業を結ぶことでインタビューを実施したり、成果報告会を中継したりした。企業の方はもちろん、学生もこうしたツールには慣れていたのである。教室やホールに集まって成果発表会をしていた旧来とは全く異なる形を取ることができ、今後のプロジェクトワークの展開も新しいものになると思われる。

さらに、現役の日本の社会人・企業人と話すという経験は、我々が想像するよりも学生たちにとっては非常にインパクトが大きく、貴重な経験となったようである。普段の学生たちの取り組む姿勢が普段の教室とはまったく違ったというのが講師たちの感想である。学生のモチベーションを上げるという観点からも教務としては非常に参考となる事例となった。

3 日本語教育学科

①在籍者数

2022年10月	2022年4月	2021年10月	2021年4月	2020年10月	2020年4月
293	191	271	264	388	418

②進路状況（合格実績）

	大学院		大学			短大	外部 専門
	国公立	私立	国公立	難関 私立	他私 立		
2016年度	28	13	9	19	35	0	34
2017年度	34	18	20	12	29	0	46
2018年度	21	12	7	13	23	0	52
2019年度	21	7	7	9	32	0	20
2020年度	16	8	13	5	30	0	18
2021年度	12	6	8	12	44	0	10
2022年度	6	7	9	12	18	0	5

難関私立大学：関関同立 早慶 MARCH 学習院 ICU 上智 etc.

【大学院】

大阪大学大学院、広島大学大学院、山形大学大学院、北陸先端科学技術大学院大学、奈良先端科学技術大学院大学、横浜市立大学大学院、同志社大学大学院、関西学院大学大学院、立命館大学大学院（2名）日本女子大学大学院、城西国際大学大学院、桃山学院大学大学院

【大学】

大阪大学、秋田大学、京都府立大学、大阪教育大学、公立鳥取環境大学、高知県立大学（2名）、北九州市立大学、タマンサート大学、同志社大学（3名）、関西学院大学（3名）、関西大学（2名）、立命館大学、京都産業大学、龍谷大学（2名）、南山大学、中央大学（2名）、東海大学（2名）、山梨学院大学、桜美林大学、兵庫大学、足利大学、大阪産業大学、京都美術工芸大学、東京経済大学、帝塚山大学、桃山学院大学（2名）、相愛大学、大阪学院大学、大和大学

【専門学校】

内部進学 31名（応日 21名、国ビ（デュアル）6名、国コミ 4名）、大阪調理製菓専門学校、大阪デザイナー専門学校、専門学校アニメ・アーティスト・アカデミー、関西テレビ電気専門学校、大阪観光ビジネス学院

【就職】

協同組合西日本技能センター、株式会社ミドリコミュニケーションズジャパン、北吉田診療所、オリックス・ホテルマネジメント株式会社、株式会社オーディエム、(株)由松総本店 関空温泉ホテルガーデンパレス。

③運営状況

前期はS（特進）3クラス、その他7の合計10クラスという小規模での運営となった。4月の授業開始に間に合わない学生がほとんどで最も入国が遅いのは6月という状況ではあったが、ハイブリッド授業だったこともあり、新入生も海外にいながら授業に参加することができた。6月20日に対面授業が再開されてからは、校内に活気が戻り、学生とメンターとの連絡もうまく進み始めたように思う。

後期はS（特進）4クラス、2Z（最上級）3クラス、2K（上級）2クラス、1Z（中級）3クラス、1K（初級）4クラスで運営を行った。多少の入国遅れがありつつも学期の立ち上がりは比較的スムーズに行えたが、秋頃から年明けまで新型コロナウイルスが猛威を振るい学級閉鎖に追い込まれた。学生の感染による授業進度の遅れはもちろん、多数の講師や職員も感染してしまったことで一時は学科全体の閉鎖を検討するまでに運営に支障をきたす事態となった。

Sクラス数の減少で大学院志望者の母数が半減したことに伴い、大学院合格者は減少しつつある。また、一般私立大学合格者数も減少しているが、国公立大学及び難関私立大学の合格者数は昨年並みを保っていることを考えると、国公立大学進学コースの教育効果は出ているものと考えられる。今後、国公立大学・大学院の合格実績を伸ばすためには、中国を中心とする漢字圏の学生募集に力を入れる必要がある。

一般コースでは、これまでになかった動きとして特定技能へのビザ変更の動きがみられた。特定技能を希望する学生はすべてインドネシア国籍で、当初は専門学校等への進学を希望していたが経済的な問題や学習意欲の減退などにより進路変更をしている。また、インドネシア学生の中には1年で修了や退学をして帰国する者も少なからずおり、来日前の留学計画における見通しが甘かったのではと推測されるが、これについては募集部門とも連携をして解決していく必要がある。

以上